

奈良県生駒市

鹿ノ台

(まちづくり団体) ECOKA委員会



構成人数：22名（H24年度末時点 | 地区内人口約8,000名）

平均年齢：67歳（H24年度末時点）

活動費用：各種まちづくり支援、森づくり支援、地域貢献活動支援制度への応募による助成金

地域住民が自然と親しめるよう、周辺緑地の整備や落ち葉清掃等の活動を行い、自然と生活が調和する地域づくりを行っている。

【まちづくり団体について】

1. きっかけを作った人物

居住者の数名

地区周辺の緑地が鬱蒼とした密林状態で、地域住民からの怨嗟の声もあがり、緑地の機能回復と死角の解消等、自分たちのまちは自分たちで守るという意識の下、居住者の数名から発展した。

2. 活動の目的

生活者が自然と親しめる環境作り

地区周辺の未整備緑地を森林公園化する活動を行い、地域住民が自然と親しめる自然環境の整備を行っている。
上記活動を通して地域住民との協働精神を醸成し、質の高い良好な住環境の持続可能な地域づくりを行う。

3. 他団体との連携方法

- ・重複会員による
情報伝達
- ・回覧による依頼

他団体との重複会員が数名いることから、そこから情報を得て互いに積極的な人的支援を行っている。

また、地区の自治会から回覧で清掃の周知があった場合は活動に協力している。

4. 行政との連携方法

行政主催の講座 で知識を学び、小 学校への教育活 動支援等で還元

行政主催の「花の講座」「緑の講座」で専門家から基礎を学んだり、実習を行って地域で花とみどりのまちづくりを実践するボランティアを養成し、意識向上につなげている。

また、学んだ知識を小学校に出向いて教育支援や花壇管理等を行い、還元している。

その他、花苗の支援等の助成を受けている。

まちづくりについて

1. まちづくりのきっかけ

生活と周辺緑地 が調和された地 域を作る

鹿ノ台地区は周辺都市部への就労者が多く、住環境には豊かな自然の中で癒しを求めていた。

にも関わらず、地域住民の生活と周辺緑地との調和がなされていなかったため、生駒市内で一番の閑静で緑豊かなまちなみとするべく、生活と緑地が調和されたまちづくりを始めた。

2. まず始めたこと

- ・緑地整備
- ・不法投棄ごみ
回収

緑地の間伐、枝打ち、草刈等実行可能な整備から行っていった。

また、行政と協働で不法投棄されたごみの回収を行った。

3. 参考にしたまち

シンガポール

緑化政策を行っているシンガポールを参考に、地上から2～3m以下は全て枝打ちする等、すっきりとしたまちなみの中にも緑が感じられるように実践している。

枝打ちされた街路樹



目線の高さに枝がなくすっきりと見渡せ、
緑も豊かに感じられる

4. 反対者の有無

なし

反対者はいないが、地域社会に全く無関心な人もおり、肉体労働となるためなかなか活動の協力が得られない。

5. まちづくりを行う上での肝

熱意と信念

郷土愛、定住意識、社会参加、地域貢献等地域社会に対する思いを持っており、継続的に活動を行っていく熱意とぶれない信念を持っていること。

6. 利用した補助事業

- ・【生駒市】生駒市マイサポ制度
- ・【国土緑化推進機構】緑の募金事業(平成22年度)
- ・【奈良県】奈良県地域貢献活動助成金(平成23～25年度)
- ・【都市緑化機構】花王・みんなの森づくり活動助成(平成25年度)
- ・【林野庁】森林・山村多面的機能発揮対策交付金制度(平成26年度)

7. まちづくりの過程で困難だったこと

- ・資金調達
- ・意識改革

団体設立当初は会員集めや資金調達がなかなか進まなかった。

また、住環境が行政によって維持管理されているという認識の人も多く、ボランティアに対する意識が低いということもあり、その意識改革を行っていくことが大変であった。

8. 結果を出すために実施したこと

- ・緑化活動
- ・他地域への波及
- ・緑化活動助成への応募

草刈、枝打ち、落ち葉清掃、遊歩道整備、四季の花植えなど公園や緑地の緑化活動を行った。

年間約50本を植樹し、これまでに500本以上の植樹を行っている。(サクラ、モミジ、ウメ、カシ、ツバキ等)

自らの活動を他地域へ伝えて波及させており、関係省の全国応募にチャレンジし、助成金を活動資金に充てている。

9. どのような「まち」にしたいか

豊かさを実感できる

安心・安全で真に豊かさを実感できるまちを目指し、市域をブランド化していきたい。

ワークショップについて

1. 開催について

通常の会議は月1回の頻度で開催している。

市の施策として公園をリニューアルする際には、地域住民が主体となって公園の使い方や維持管理に関するワークショップを実施。

話し合い形式のグループワークショップを5回、不要樹木の伐採、階段づくり等作業ワークショップを3回行った。

2. 開催案内方法

ワークショップ内容
の周知と共に次回
開催案内も行う

ワークショップを行った際に自治会会員全員に発行するワークショップニュースに次回開催案内を掲載している。

自治会長のリーダーシップによるところが大きい。

3. 開催曜日、時間の決定方法

多くの自治会会員
が参加できる日時

多くの地域住民が生駒市街で働いているため、最も参加しやすい土曜日、もしくは日曜日の午前中に設定し、ファシリテーターや行政職員と調整している。

4. 内容について

行政がワークショップの運営事務をコンサルタントに委託してファシリテーター、アドバイザーとして携わってもらった。

ワークショップの実績が多いコンサルタントであったことから、参加者のアイデア等を効率よくまとめ、スムーズに話し合いを進めることができた。

1. 状況・規模

住環境・教育環境の向上

街路樹の枝打ち等を行うことでまちが見渡せ死角がなくなっていると共に、防犯意識が高まり、鹿ノ台地区への3箇所入口に防犯カメラを設置した。

樹木の成長により緑も多くなり、住環境や教育環境が向上し、子育て世代の転入が増加している。

2. 来訪者

緑地整備直後は増加したが、徐々に減少して現在は整備前と同様の状況になっている。

観光目的の来訪者はいないが、良好な住環境を形成しているため、不動産購入の見学者は散見される。

3. PR方法

各種支援等への応募

各省庁等が募集している緑化活動や緑のまちづくり対象の事業に応募し、採用されることでまちのアピールとなっている。

4. その他

電柱が住宅内に設置されており、道路上の障害物をなくすと共に、広告物に関しても住宅内ということから貼られることが少なく、たとえ貼られても自分の敷地内なので家主が自ら処理して良好な景観が維持されている。



その後の活動

1. 継続活動

- ・清掃活動
- ・オープンガーデン

清掃活動、草刈等日々の活動は継続して行っている。
また、個人の庭を一般に公開するオープンガーデンを実施しており、新聞に取り上げられたことから見学者が増加している。

その他

1. まちづくりを行って変化した点

- ・地域住民の意識
- ・行政の支援

地域住民にまちをきれいにしようという意欲が湧いており、ポイ捨て等のマナーが改善されている。
花を植える家庭の増加や緑化の推進により各種賞を受賞し、地域住民に誇りが生まれている。
また、それに呼応して行政からの支援や情報提供が積極的になり、多くの人が知識を共有できている。

2. 今後の課題と展望

- ・担い手不足
- ・福祉・介護支援

高齢化により活動が困難になってきており、若い世代の参加、次世代の担い手不足の解消方法を暗中模索している。
今後はホームページによる積極的な発信と、他団体との協働により福祉や介護の支援体制を作っていくと考えている。

3. 活動地域のPRポイント

- ・閑静で緑豊か
- ・日常生活が
- ・地区内で完結
- ・市内一の
- ・セキュリティー

閑静で緑豊かなバランスのとれた街区を形成している。
食料品店や公共施設が整っており、地区内で日常生活が完結する。
地区内への3つの出入口全てに防犯カメラを設置していることと死角のないまちづくりによって、市内一の安心・安全なまちである。

1. まちづくり団体との関わり

緑地整備の知識・ 技術を身につける ための支援

当初は地元要望を受け、景観を損なっているクズ（繁茂力の強い雑草）の部分的な処理を行っていたが、奈良県からの森林環境税導入計画の活用依頼を受けて、官民協働で緑地整備に取り組むことを地域住民に提案した。

指南役として市内の森林ボランティアに自主組織で緑地整備が行えるよう鹿ノ台地区の地域住民に知識・技術の指導を行い、共に整備する旨の提案を行う。

その結果、約3年間の指導及びフォローをアップ行い、現在は自主組織だけで緑地の維持管理を行っている。

2. 地域住民との合意形成を図る際の進め方

地域住民発意

地域住民から「緑地のマスタープラン」の掲示を受けたり自主組織を立ち上げる等、地域住民発意の取り組みがほとんどで、非常に熱心に活動している。

まちづくりについて

1. 取り組み前の課題

・荒れた周辺緑地 ・知識・技術不足

周辺の緑地は鬱蒼^{うっそう}としており、なんとか整備を行いたいが、地区住民には緑地整備に関する知識・技術がなかったため、指南役が必要であった。

2. 行政の役割

きっかけづくり

助成制度の活用促進や森林ボランティアとの繋ぎ役等、緑化活動を円滑に行えるようにするためのきっかけを与えている。

3. まちづくりで活用した補助事業

【奈良県】 地域で育む里山 づくり事業

奈良県で森林環境を守るために平成18年度から導入された補助事業で、森林所有者と協力し、地域住民の自主的な森林整備活動として整備を行う団体に補助金を交付する。

4. 整備の際のまちづくり団体意見取り入れの有無

緑地整備はまちづくり団体が積極的かつ主体的に実施しており、沿道の高木の維持管理は行政が、その他はまちづくり団体が行うという役割分担を行っている。
また、街路樹においては、行政へは歩道の植樹の刈り方等の相談や確認がある。



丸みをつけることで、やわらかな印象を与えている。

ワークショップについて（公園のリニューアル）

1. 行政の役割

ワークショップの 運營業務を委託

地域住民が公園に愛着をもって利用し、将来にわたって育めるよう、公園づくりを支援する「コミュニティパーク事業」で、行政がワークショップの運營業務をコンサルタントに委託している。

まちなみについて

1. 整備後のPR方法

まちづくり関係賞 への推薦

国土交通省の「手づくり郷土賞」他、まちづくり関係賞への推薦を行い、受賞することでまちのPRとなっている。

また、広報紙により受賞の状況や活動について周知を図っている。

2. 地域住民からの苦情

沿道の高木以外 の苦情は少ない

緑地のあり方や地元まちづくり団体（ECOKA委員会）の整備内容について苦情が入ることはあるが、整備のいきさつを説明する程度で、沿道の高木以外の苦情については、ECOKA委員会で対処している。

（ECOKA委員会）
生駒市鹿ノ台地区を中心に緑地整備や落ち葉等の清掃活動を行っているボランティア活動団体

1. 担い手探しへの協力

ボランティア養成講座の実施

花や緑に対する地域住民の関心を高め、意識醸成をしていただくため、各分野の専門分野から基礎を学び、講義と実習を交えて花とみどりのまちづくりを実践するボランティア養成講座を実施している。

また、まちづくり団体に担い手づくりの重要性について常日頃から話をしている。

2. フォローアップ内容

緑地整備のための材料支給

緑地整備するための安全面の配慮として、法面への階段材料の原材料支給を実施している。（設置はまちづくり団体）

街路樹については生駒市が管理し、道路・公園用地に存在する花壇は奈良県事業のモデルとしてスタートし、まちづくり団体が自主的に管理している。

活動地域のPRポイント

まちづくりのモデル地区

12haという広大な面積の緑地整備を地域で継続して実施し、他の公共用地においても植樹や花壇の継続的な管理を行っている。

まちづくりの種々コンテストでの受賞が裏付けるように、まちづくりのモデル地区として素晴らしい活動を行っている。

